令和６年度

全国学力・学習状況調査

能代市分析結果

能代市教育委員会

Ⅰ．調査の概要

(1)　調査の目的

〇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

〇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

〇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2)　調査の対象

小学校６年生、中学校３年生

(3)　調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学 ）

・小学校調査：国語、算数

・中学校調査：国語、数学

②質問紙調査

・児童生徒に対する調査

・学校に対する調査

(4)　調査の方式

悉皆調査

(5)　調査期日

令和6年４月１８日(木)

(6)　調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	学校数（実施率）	実施児童生徒数
小学校	７校	７枚（１００％）	２７３人
中学校	６校	６校（１００％）	３０１人

2. 教科に関する調査結果

＜ 概要について ＞

小・中学校とも概ね良好な状況です。

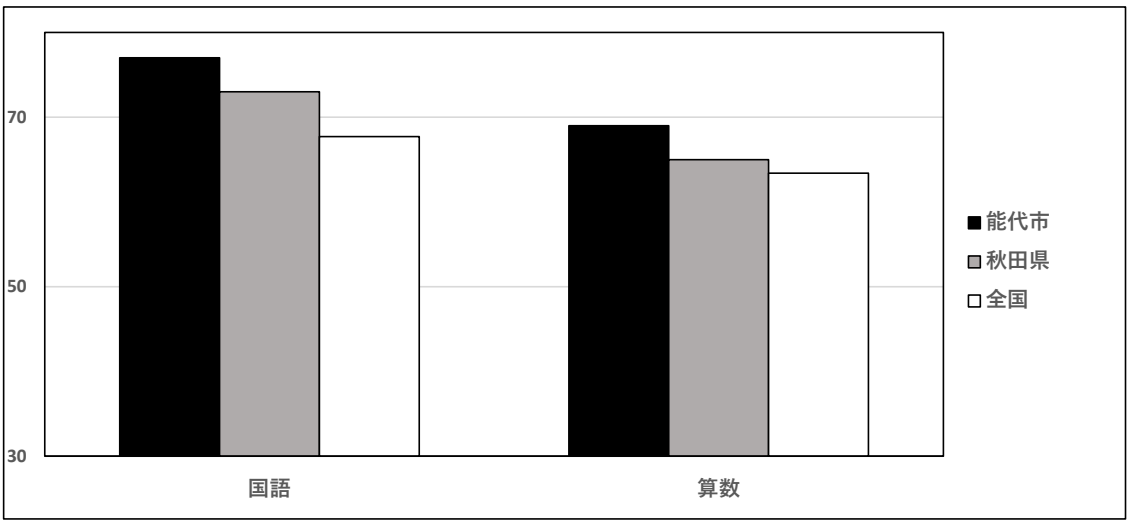
（1） 全国比較について

小学校の国語・算数で、全国平均を上回っています。中学校の国語は全国平均をわずかに上回っていますが、数学はわずかに下回っています。

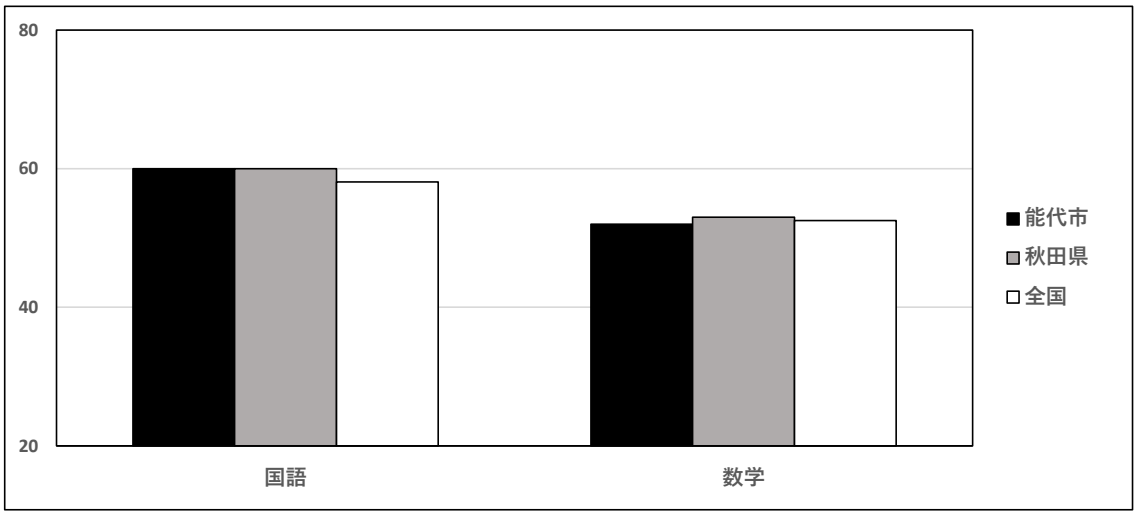
（2） 秋田県比較について

小学校の国語、算数で、秋田県平均を上回っています。中学校の国語は県平均をやや上回っていますが、数学は県平均をわずかに下回っています。

（3） 小学校6年生平均正答率（%）

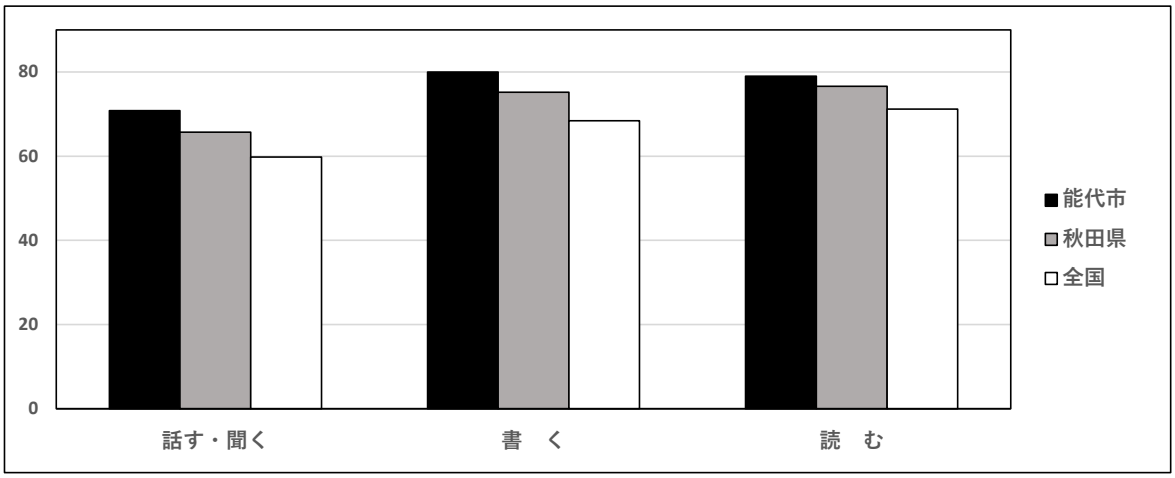


（4） 中学校3年生平均正答率（%）



3. 教科に関する調査結果（小　国語）

＜ 小学校国語について ＞



（1）領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です。

「話す･聞く」「書く」「読む」のすべての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

（2）設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、13問が全国及び秋田県平均を上回っています。

よくできました

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題は、国及び秋田県平均を大きく上回りました。　【設問２二】

更なる向上を目指して

・人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題
【設問３二（２）】

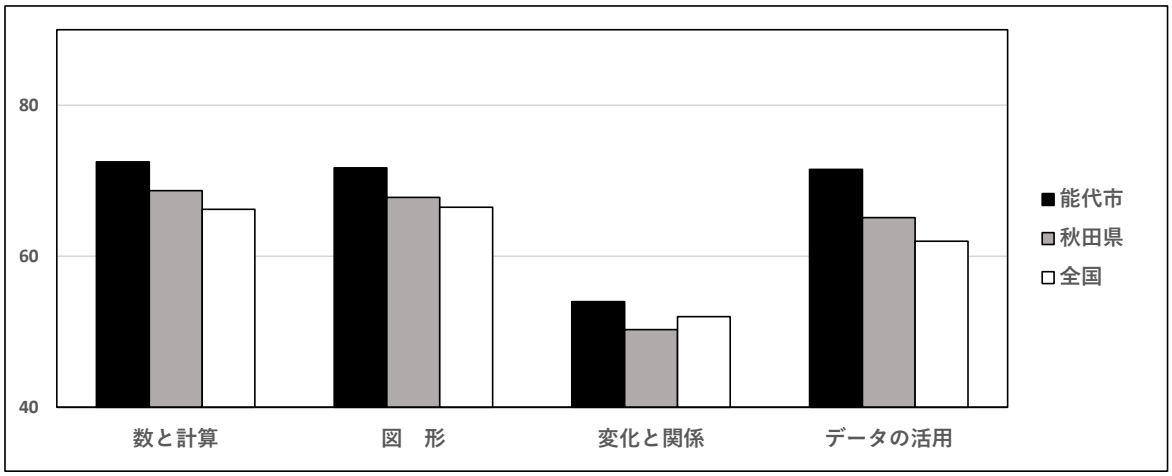
指導のポイント

・登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方等を総合して判断することが必要です。学習指導に当たっては、漠然としている登場人物の人物像を明確にしたり、想像した人物像の根拠となる描写を明らかにしたりすることができるよう指導することが大切です。また、その際には、同じ登場人物について、異なる人物像を想像した児童同士で交流するなど、交流の仕方やグループ編成等を工夫する必要があります。

【参考】令和６年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果（小　算数）

＜ 小学校算数について ＞



（1）領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です。

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

（2）設問別平均正答率の結果と課題等について

全16問中、14問が全国及び秋田県平均を上回っています。

よくできました

計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題で全国及び秋田県平均を大きく上回りました。　【設問２（１）】

更なる向上を目指して

- 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題　【設問３（２）】
- 除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる問題　【設問４（１）】

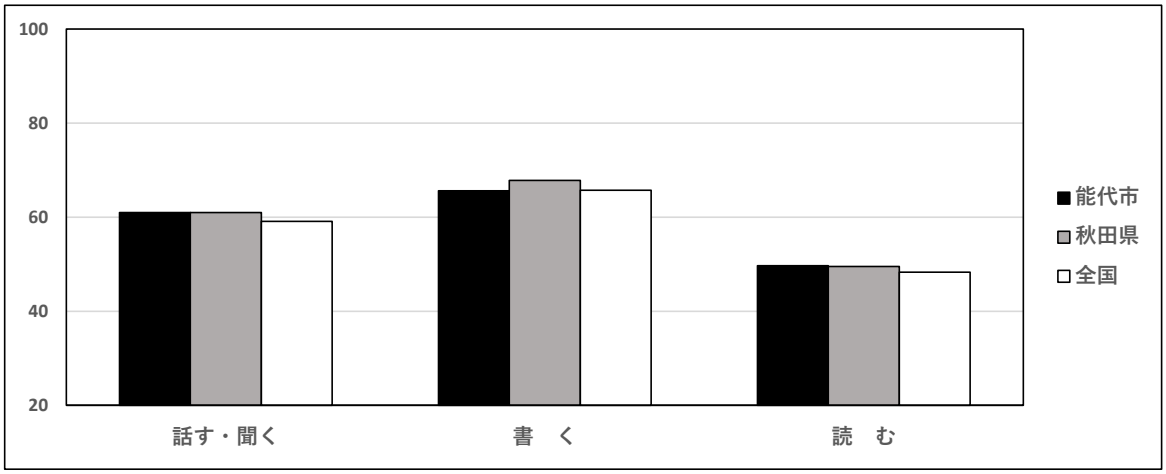
指導のポイント

- 円周率を用いて直径の長さから円周の長さを計算によって求めるだけでなく、円周率が円周の長さの直径の長さに対する割合であることを理解できるようにすることが大切です。指導に当たっては、例えば、身の回りにある幾つかの円の形について円周の長さの直径の長さに対する割合を調べる活動が考えられます。
- 除数が小数である場合の除法の計算について、整数の場合の計算の意味や計算の仕方を活用して、計算することができるようにすることが大切です。指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、540÷0.6の計算の仕方を考える活動が考えられます。

【参考】令和６年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果（中　国語）

＜ 中学校国語について ＞



（1）領域別平均正答率の結果について

全ての領域において概ね良好な状況です。

「話す･聞く」「読む」では全国･秋田県平均とほぼ同じ、「書く」ではわずかに下回っています。

（2）設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、5問が全国及び秋田県平均を上回っています。

よくできました

文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる問題で、全国及び秋田県平均を上回りました。

【設問２三】

更なる向上を目指して

- 目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題　【設問２四】
- 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題　【設問３四】

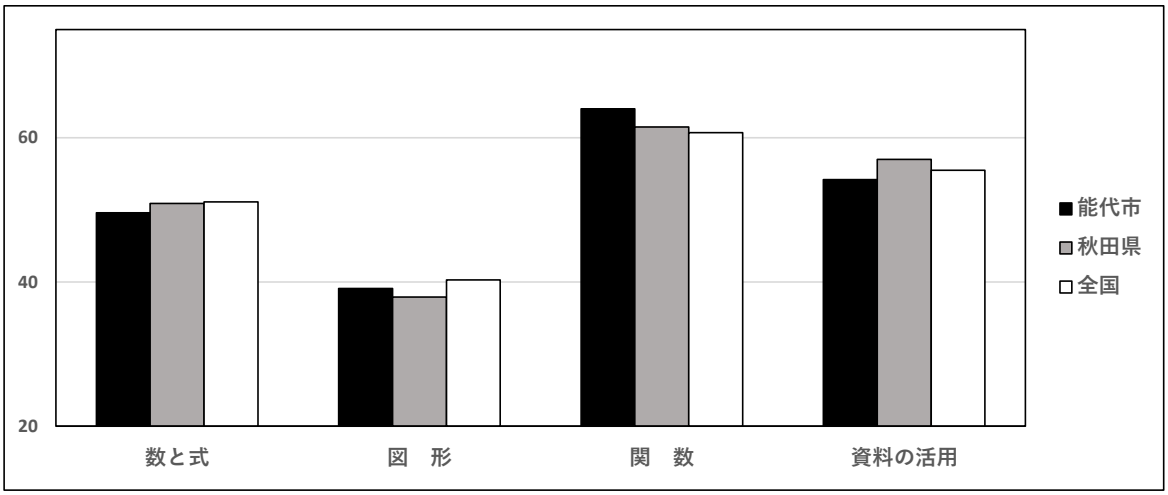
指導のポイント

- 要約する際には、目的を明確にし、その上で、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えることが重要です。目的に応じて必要な情報を適切に取り出してまとめられているか、自分の言葉を用いてまとめた部分と文章の内容とに隔たりがないかなどを確認しながら、適切さや正確さを意識して要約できるようにすることが大切です。
- 自分の考えが伝わる文章になるように工夫する際には、用いた語句や表現が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを確かめながら、より効果的な語句や表現を選ぶことが重要です。その際、読み手に伝えたいことを明確にし、そのねらいに応じた表現の工夫ができているかを確かめることができるように指導することが大切です。

【参考】令和６年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果（中　数学）

＜ 中学校数学について ＞



（1）領域別平均正答率の結果について

全ての領域において概ね良好な状況です。

（2）設問別平均正答率の結果と課題等について

全16問中、10問が全国及び秋田県平均を上回っています。

上できました

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを見る問題で、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。

【設問８（２）】

更なる向上を目指して

- 等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる問題
  【設問２】
- 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題
  【設問９（１）】

指導のポイント

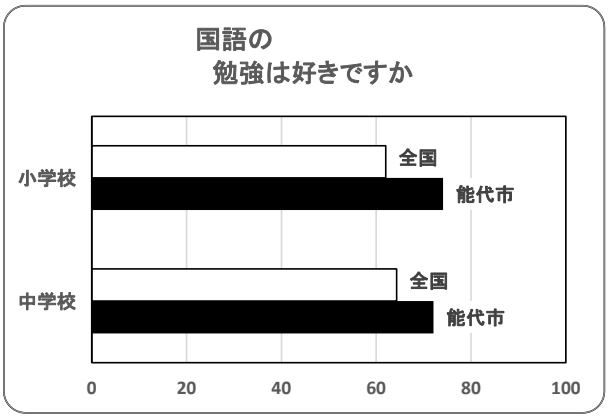
- ある文字について解くことの意味を理解し、等式の性質などの根拠に基づいて等式を変形できるように指導することが大切です。また、二つ以上の文字を用いて数量の関係について考察する場面を設定し、等式の性質などを用いて目的に応じて等式を変形できるように指導することも重要です。
- 事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の仮定を数学的に表現できるようにすることが大切です。

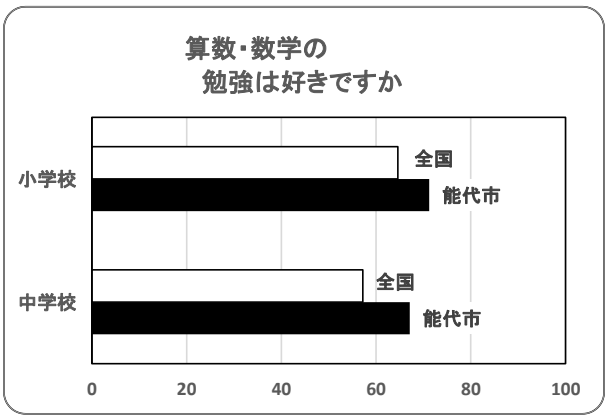
【参考】令和６年度全国学力・学習状況調査報告書

4. 質問紙調査結果①（授業づくり）

(1) 国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度

各教科に対する関心や意欲が高い児童生徒の割合が全国平均と比べて高い。



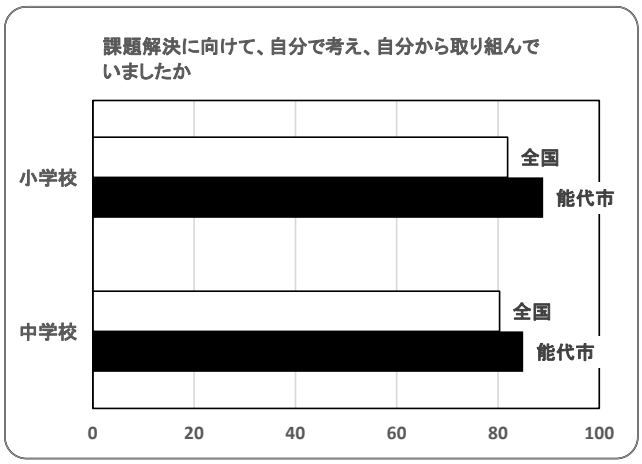


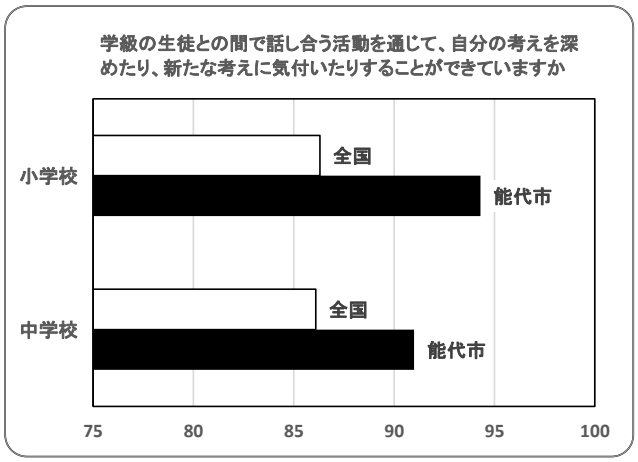
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合（%）

小学校の国語、算数、中学校の国語、数学ともに、全国平均を上回っています。また、「授業の内容はよく分かりますか」についても、いずれの教科でも全国平均を上回っています。

(2) 授業の中での児童生徒の意識

- **課題の解決に向けて、主体的に取り組む児童生徒の割合が全国平均を上回っている。**
- **学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている児童生徒の割合が全国平均を大きく上回っている。**





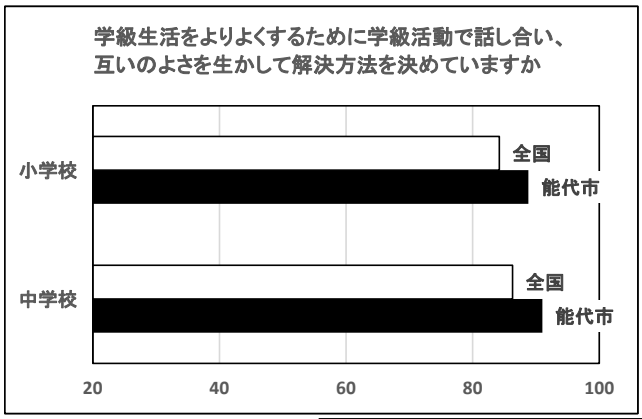
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合（%）

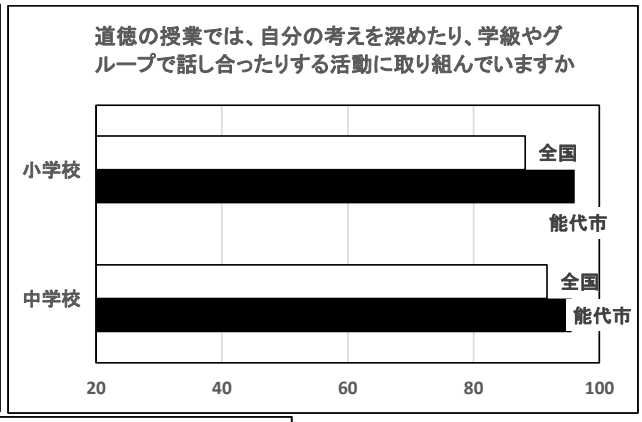
小・中学校ともに、全国平均を上回っています。各教科において秋田の探究型授業が定着し、主体的・対話的で深い学びが展開されていることがうかがえます。

4. 質問紙調査結果②（話合い・ICT）

(1) 話合い活動

学級生活をよくするための話合いや、考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童生徒の割合が全国平均に比べ高い。





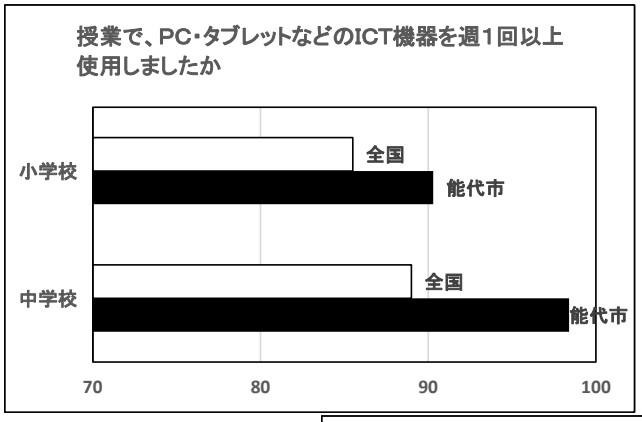
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合（%）

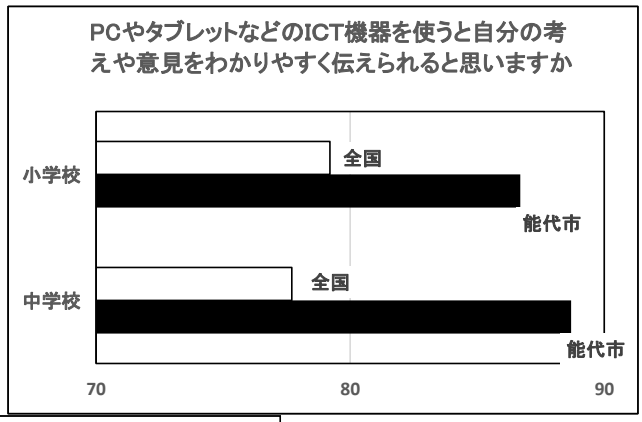
教科だけでなく、特別活動や道徳等でも、互いのよさを尊重して話し合う活動が取り入れられています。友達の異なる考えに触れ、折り合いを付ける話合い活動が継続的に行われています。

(2) 授業におけるICTの活用

「学習の見通しをもつ」「自分の考えをもつ」「集団で話し合う」「学習内容や方法を振り返る」の各場面でＩＣＴ機器の積極的な活用が図られている。

ＩＣＴの活用が勉強に役立つと考えている児童生徒が多い。





「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合（%）

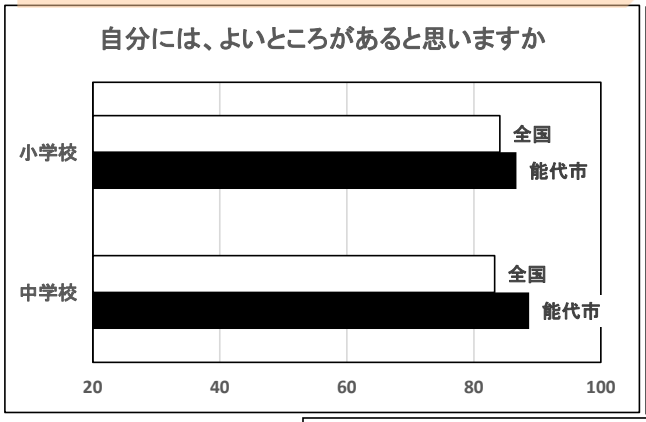
タブレット型端末が日常的に活用されるようになり、「文房具」として定着してきたことがうかがえます。学びを広げたり、深めたりするために、秋田の探究型授業に、ＩＣＴの効果に着目して活用することが大切です。

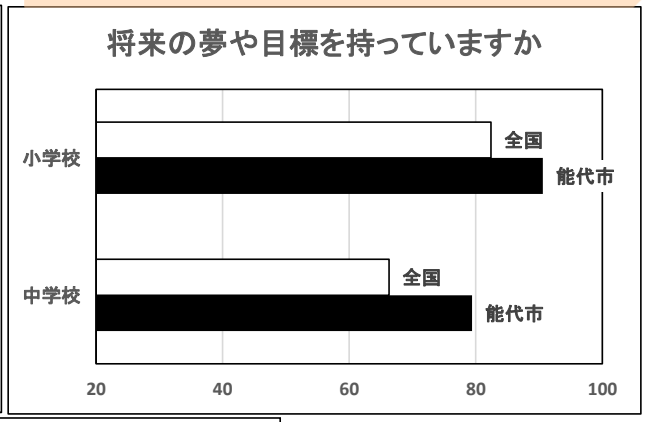
4. 質問紙調査結果③（ふるさと・キャリア）

(1) 自己肯定感、キャリア形成

自分にはよいところがあると思っている児童生徒が全国平均より高い。

将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合が全国平均より高い。





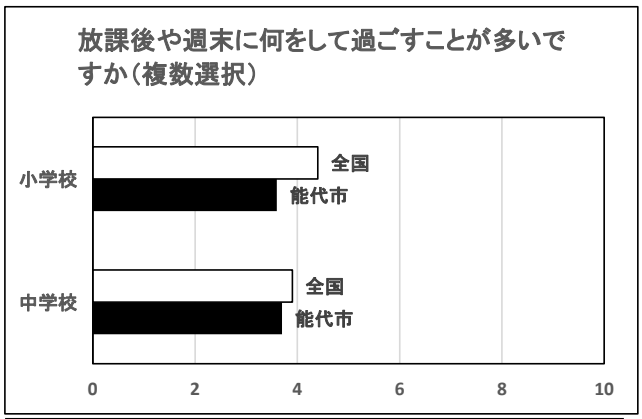
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合（%）

各校では、児童生徒一人一人が活躍できる場や他者から認められる場を意図的に設定した授業や活動が行われています。自己肯定感の醸成やキャリア教育の充実のためには、発達段階に応じた場の設定が大切です。

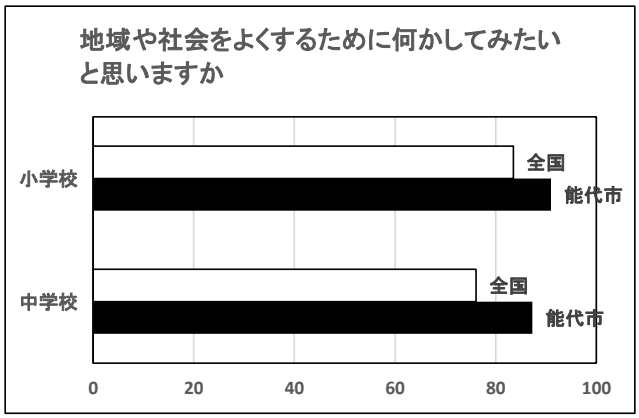
(2) 地域との関わり、地域貢献

放課後や週末に地域の行事に参加している児童生徒の割合は全国平均とほぼ同じ。

地域をよくするために何かしてみたいと思っている児童生徒の割合が全国平均より高い。



選択肢のうち、「地域の活動への参加」と答えた割合（%）



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合（%）

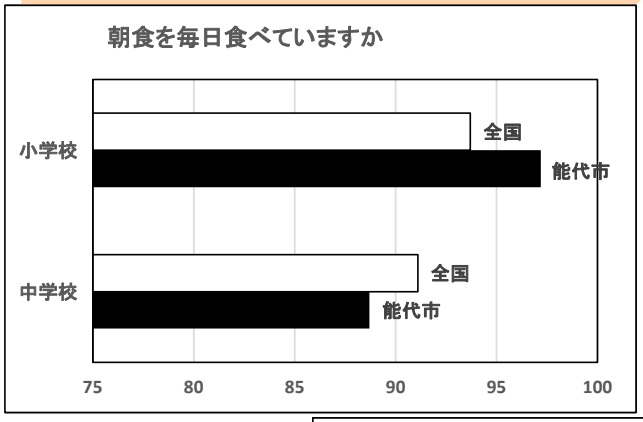
小・中学校ともに、地域や社会とのつながりを意識している様子がうかがえます。地域の方に協力していただきながら学習活動が多く取り入れられているため、地域の活動に参加しようとする児童生徒が育ってきています。

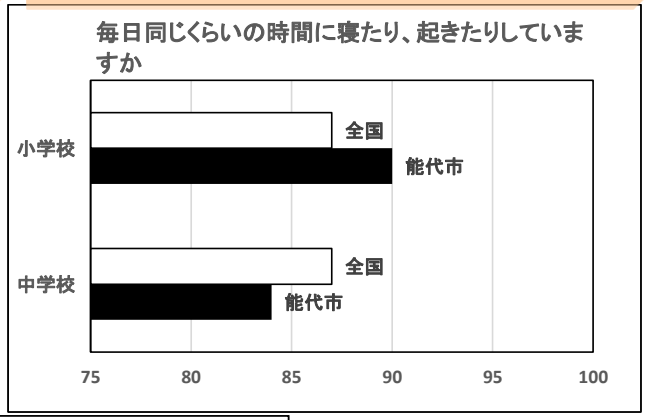
4. 質問紙調査結果④（家庭の教育等）

(1) 家庭生活（朝食・生活リズム）

小学校では朝食を毎日食べている児童生徒の割合が全国平均を上回っているが、中学校では下回っている。

小学校では毎日同じくらいの時間に寝たり起きたりして児童生徒が全国平均を上回っているが、中学校では下回っている。



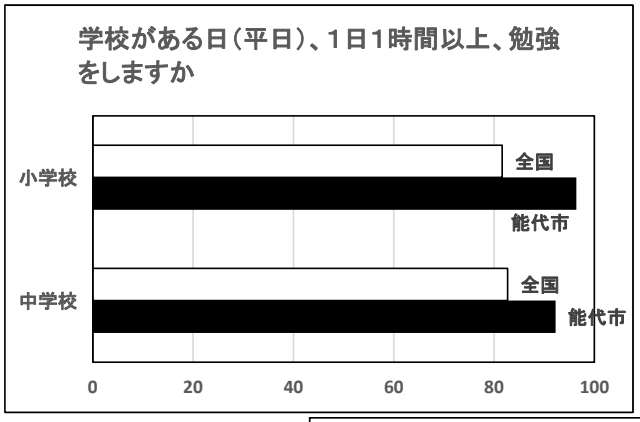


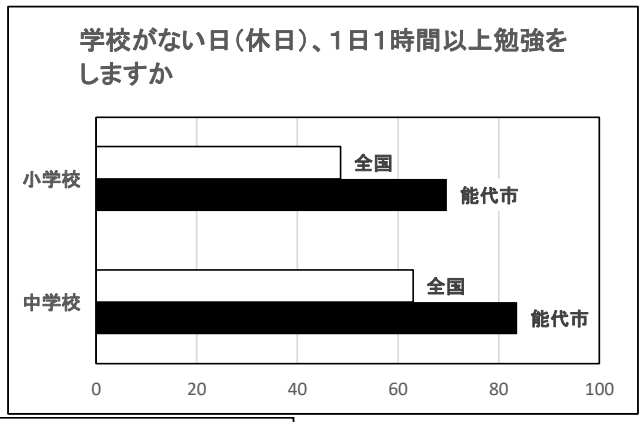
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

落ち着いた学校生活のためには朝食をきちんと摂ることや十分な睡眠時間を確保することが大切です。小学校で身に付いた習慣を、中学校でも続けられるよう、家庭との連携を図りながら、機会を捉えた指導をすることが必要です。

(2) 家庭での学習時間

・平日１時間以上勉強する児童生徒の割合は全国平均より高い。
・休日１時間以上勉強する児童生徒の割合は全国平均より高い。
・中学生は平日よりも休日に１時間以上勉強する割合が高い。





「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

家庭学習の定着に向けて、各校で工夫した取組が行われています。ＡＩドリルやタブレットを活用した家庭学習に取り組んでいる学校も見られます。今後も家庭と連携しながら、継続的に指導することが大切です。